

地域包括ケアシステム（在宅医療）構築のための ロードマップ策定手順書（マニュアル） - 骨子案 -

はじめに

～記載事項～

- ・ 本モデル事業の趣旨・背景（地域包括ケアシステムの推進、また医療・介護の連携、在宅医療提供体制の確保の更なる推進が求められていること等）
- ・ ロードマップの位置づけ及び本マニュアルの使い方

I 在宅医療提供体制の確保に向けて

(1) 市町村と在宅医療施策

～記載事項～

- ・ 医療計画や在宅医療・介護連携推進事業など、制度の概要説明
- ・ 市町村が将来像をもって在宅医療・介護連携の推進に取り組む必要性（人口・死亡者数等の統計データ及び在宅医療、医療・介護連携に係る動向を踏まえる）

(2) 在宅医療の提供体制に求められる4つの医療機能

～記載事項～

- ・ 在宅医療・介護連携を推進していくうえで参考となる、4つの医療機能（「退院支援」「日常の療養支援」「急変時の対応」「看取り」）の視点について、厚生労働省資料を基に紹介
- ・ 行政内部での効率的な事業運営のために、地域支援事業との連動の視点について、厚生労働省資料を基に紹介

II 地域分析の準備 —オープンデータ整理—

(1) 地域の基本データの収集・整理

～記載事項～

- ・ 市町村担当者が地域概要をおさえるための基本的なオープンデータ（人口推計や死亡者数など）の収集・整理方法

(2) 在宅医療に係るオープンデータの収集・整理

～記載事項～

- ・ 市町村担当者が地域の医療・介護資源の概要をおさえるための基本的なオープンデータ（事業所数など）の収集・整理方法

●地域の基本データの収集・整理

- ・ 人口推計（国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」）
- ・ 死亡者数と死亡場所（大阪府「人口動態調査」※実績のみ）
- ・ 世帯数（国勢調査）
- ・ 平均余命・健康寿命（市区町村別生命表、健康寿命及び地域格差の要因分析と健康増進対策の効果検証に関する研究）
- ・ 要介護認定者数等（介護保険事業状況報告、地域包括ケア見える化システム）

●在宅医療に係るオープンデータの収集・整理

- ・ 医療機関・介護事業所数等（在宅医療にかかる地域別データ集等）
- ・ 訪問診療・往診等の実施施設数・件数等（在宅医療にかかる地域別データ集等）
- ・ 医療需要等（大阪府地域医療構想、日医総研ワーキングペーパー等）

●定量調査の実施

- ・ 医師会・医療機関・介護事業所等に対する、在宅医療の取組状況調査
- ・ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査への調査項目の追加
- ・ 消防本部に対する搬送状況調査

【参考】定量調査の実施

- ・ 住民向け及び関係団体向けの調査に関する参考例

Ⅲ 地域の問題点・課題の仮説づくり—定性情報の収集・活用—

(1) 関連団体へのヒアリング

～記載事項～

- ・ II章のオープンデータ整理結果も踏まえた、地域の現状と課題を把握するための各職能団体（団体がいない場合には代表者）へのヒアリング調査の実施
- ・ 参考例として、岩手県釜石市の連携方法を例示
- ・ モデル事業で使用した基本的なヒアリング項目シートを例示

(2) 現状と課題の仮説づくり

～記載事項～

- ・ II章およびⅢ章（1）の結果を踏まえ、ロードマップの現状と課題にあたる内容のとりまとめ方法
- ・ 公開可能な範囲で、モデル事業の結果を例示

【参考】 フレームワークの活用

- ・ ロジックツリーやSWOT分析など、フレームワークの紹介

Ⅳ 将来像の設定と取組の検討

(1) 将来像（目標）の設定と取組内容の検討

(2) 指標設定・進捗管理の検討

(3) 評価・改善の検討

～記載事項～

- ・ 短期・中長期の将来像（目標）の設定方法。参考例として、国立市の医療計画を例示
- ・ 設定した目標を達成するための、指標設定や進捗管理の方法
- ・ PDCAサイクルの仕組みづくり

【参考】 アクションプランを作成する

- ・ 進捗管理のためのアクションプラン（単年度）の作成方法を例示

Ⅴ 地域における検討の場づくり

(1) 検討の場づくりの必要性

(2) 検討の場の運営方法

～記載事項～

- ・ III章及びIV章の内容をさらに地域の実情にあわせていくために、多職種が参画する検討の場の活用を推奨
- ・ モデル事業や先進事例における取組内容を基に記載
- ・ 検討メンバーの選定、検討事項や課題抽出、対応策の検討・実施などの進め方について、モデル事業や先進事例を基に紹介

【参考】 広域連携を考える

- ・ 複数市町村で取り組んでいる先進事例から、連携方法や連携によって得られた取組の推進力などを紹介